

## ○阪神・淡路大震災から 24 年…

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、兵庫県南部地震(M7.3)が発生、死者 6,434 人を出す大災害(阪神・淡路大震災)となりました。大都市の直下で活断層が活動して起きた地震でした。建築物、土木構造物の倒壊や崩壊、ライフラインの断絶、広域火災、地盤の液状化、六甲山地での斜面崩壊など、まさに都市の複合的な災害でした。約 25 万棟の建物が全半壊し、約 31 万人が避難所での生活を強いられました。大規模な被害をもたらした震災の記憶と教訓を忘れてはいけません。



この時、学生を中心としたボランティア活動が活発化しました。「日本のボランティア元年」と言われ、これを機に、毎年 1 月 17 日を「防災とボランティアの日」とし、1 月 15 日から 1 月 21 日までを「防災とボランティア週間」とされています。この週間においては、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動の普及のための講演会、講習会、展示会等の行事が全国各地で行われています。



### なぜ、ボランティアなのか？地縁、血縁、知縁(ボランティア縁)

地縁、血縁の関係で完結できればそれが理想。ただし災害規模の甚大化・深刻化、少子高齢化等の影響により、多くの場合は完結できない。行政は、私有地の後片付けを原則としてはできない。したがって、ボランティアは私有地に直接応援できる唯一の他人。ボランティアの三原則「自主性」「無償性」「公益性」により、支援者も受益者も安心して支援ができる。

(特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事)

被災地では社会福祉協議会が主体となり「災害ボランティアセンター」が設置され、多様な被災者ニーズに対応するため、NPO 等による活動が活発に行われています。有事の際にボランティアの力が多く必要となります。大規模災害被災地への救援・支援活動については「助け合いの精神」のもと、可能な範囲で同志を募り、ボランティア活動を行うことが期待されます。

## ○地震火災の未然対策

近年の地震によって起きた火災では、電気を起因とする火災が多くなっています。1995 年の阪神・淡路大震災では原因が特定できた 139 件の火災のうち、電気による火災は 85 件(61%)でした。その中で火元が判明したものの多くが、電気が復旧した際に発生する「**通電火災**」です。当時の神戸市で発生した建物火災の中で原因が判明している 55 件のうち、6 割を占める 35 件は電気火災でした。そして、35 件中の 33 件が通電火災だとされています。通電火災を防ぐため必ずブレーカーを落としておくようにしてください。近年では地震に反応して自動的に落ちるタイプのブレーカー(感震ブレーカー)も販売されているので、そちらを購入するのも防災対策として良いでしょう。そして、避難先から戻ってきてブレーカーを上げる際には、電化製品の電源が付いたままでないか、ケーブルが破損していないか、事前に確認することが大切です。

